

# 板紙・段ボール新聞

(昭和36年12月7日、第三種郵便物認可)  
毎月7日、17日、27日発行  
第二七四七号  
11019年

元年10月17日

『競合他社を意識し過る掛け声だけでは何も生じて開発は後追い、結果まれば無理に押し付けとして社員はへトへトにれば逆効果。』まず社員疲弊、お客様に迷惑を掛けるにISOWAを好きにならなければ、長は20年前を振り返り話のこの想いを強くし、社員し出した。

『A社がこんな機械を、しかし、直ぐに変化が出した。』B社の装置は、るはずも無く、こんなこんな事が出来る。』事をしてもお客様に何も

『どうしてISOWAは、届けれない。』無駄だ、やらない。』あらゆる社長への批判は社内お客様の声に伝わる。それ外から出て『苦しい時期がISOWAだと勝手に』もあって』と言った。

『思いつき、それぞの機』それでも諦めず改革種で他社に追随し、開発を続けた事で、05年頃からは受け身になっていった。

『ミニタイプも含めれば6』変化が見えてきたところ機種以上取り揃えた。』で、06年に『世界一社風インナップの多さが強みのいい会社をつくる』になることは言え、経営者』と宣言した。新卒者に対しては分散し、徹夜仕事でして、会社の理念を全面ギリギリ納期に間に合わせる』に出して採用活動を始め

『当然、機械の完成度』たのもこの頃だ。』理念も低くなり、据付後の立共感型』採用は成功功、ち上がりは長期間に、特合同企業説明会でも同社にグループはグループのプースは、知名度がな

『メーカ』の製品を流用しても常に満員、他社をした時期があり、自社で』圧倒した。は調整も出来ない』。『自分達でも驚くほど性能も不十分。』社員の優秀な人材が採用できる疲労は頂点に達し、モチ』よようになった。』以来約ベーションも低下、お客』15年、社員推薦による中様に迷惑を掛ける始末だ』途採用は、く少数あるもの、基本的には新卒採

## 競合他社を意識、苦しい時期も変わったISOWA、今一度

『ISOWAが大きく変わった。過去の苦い経験を糧に風土改革に取り組んだ結果だ。それも20年もの年月をかけて、人を育てる土壌から、変化は変化を重ね昨年は日本一厳しい評価基準である日本ではいよいよ大切にした。』会社大賞を受賞、お墨付きももらった。』機械英之社長は、過去の失敗から包み隠さず話し、生まれ変わった今のISOWAの姿を、未だ疎遠だったままのお客様に見て頂きたい。』そして進化した機械・サービスで、迷惑を掛けたお客様に少しでも恩返しをさせて頂きたい』とした。

## 風土改革、20年掛け今の姿に

### 過去の失敗から話す磯輪社長



『ISOWAの完成度は、その直後に、急激に出荷台数は伸び、磯輪社長が、その10月末、年末据、全社員に送信したメールの感謝の気持ちを伝えた。』付機の立会運動を『お客がある。』別稿で内容の『一かたのぞく。』磯輪社長、売れまますね』記者の質問に、絵に描いた餅、おアイビスの1号機は88様の邪魔にならないよう、部を掲載。長年、国内、長も『社内の販路拡大に、』社員満足が根底に、と機械駆動側から最後、外の機械メーカーと競つ、06年に掲げた『世界一社ありますから』と明確に、まで注意深く見守った』てきた顧問だけに、アイ風のいい会社をつくる』答えた。

### 顧問からのメール

『試運転に一点流したケースは、1点は精度を出すのに極めて難しいもの(形状、紙厚とも)、最後の1点はオーバースタックを使って棒積みで積み上げたものであった。』全てのシートは殆ど完全に近い状態で流れて来て、最後の1枚もジャムの奥に焼き付いてしまっただけあって、ここまでチーム全体の努力により完成させたものと感動のために目頭は熱くなりました。』私は30年近く前より、他社と競ってきましたが、どうしても右へ出る事ができず、何度も敗戦の憂き目にあいい思いを引き下ったことがどれだけあったか頭の奥に焼き付いています。今、ISOWAチームがアイビスを開発して打ち勝とうとしています。目の黒い内には出来ないと思ってい事が今、実現しようとしています』  
2010年10月31日 磯輪英一

工場をリニューアルもきちんと評価し、これせたとはいえ、据え付けに添えている。『みんな人員を考えれば、印刷機が目指す方向を理解してならば年末年始、GW、自主的に協力し、部署をお盆、このピーク時に超えた助け合いがあったれぞれ、6台が精いつから、』まで来た。』。目ばい。海外分を含めても、指す理念を隅々まで浸透に20台が限度のよう、させている会社は、しな『これ以上やろうとすれば、やかながらも本当に強

『対外的な変化点』ことになり、結局お客様、昨年、『日本ではいっほこの時だった』と言った。』にも良い機械を届けられん大切にしたい会社大このメールを書いた4日、実力以上に受注を、審査委員会特別賞を後に、同社の未来を見届りませぬ。社員もみな同省や厚労省なども後援、検討された。』社員と同客観的な指標で、半ば公は急進した。』ISOWAの変化は加じように『仕入先様(T的に会社を評価するも速度を増す。11年、1機ASUKEBIT)との関の。』自分達は自分達で、止めません、止まりま係を大切に』する気持ち、ちゃんと言っている』を打ち出し、具体も忘れぬ。』社員満足も高まっていて、同社の売上高は、(この)と自己評価も高まっていて、北米ではフ業状態が続いている。』の目指す方向は間違っう好循環が始まった。』ISOWAと新規に取今のISOWAを、監視ルコンの人数が高くなり、かし残業時間はこの5年いなかった。』そこに確引する会社は今の姿しかき、そのISOWAが作

『国内外で新規取引先が増えている。』現在の受注でアイビス、ファルコン併せてちょうど2000台を達成。』エッジ開きの効果のおかげで、自然に口コミでその評価は広がって行く。』だ、たくさん『試運転に一点流したケースは、1点は精度を出すのに極めて難しいもの(形状、紙厚とも)、最後の1点はオーバースタックを使って棒積みで積み上げたものであった。』全てのシートは殆ど完全に近い状態で流れて来て、最後の1枚もジャムの奥に焼き付いてしまっただけあって、ここまでチーム全体の努力により完成させたものと感動のために目頭は熱くなりました。』私は30年近く前より、他社と競ってきましたが、どうしても右へ出る事ができず、何度も敗戦の憂き目にあいい思いを引き下ったことがどれだけあったか頭の奥に焼き付いています。今、ISOWAチームがアイビスを開発して打ち勝とうとしています。目の黒い内には出来ないと思ってい事が今、実現しようとしています』  
2010年10月31日 磯輪英一